

	第2回石川町振興計画審議会
	平成19年11月1日(水)午後7時から
	石川町役場第一会議室
	瀬谷企画調整課長 19:00
	会議に先立ちまして、町長よりあいさつを申し上げます。
	町長あいさつ 19:00~
	加納でございます。みなさん、こんばんは。
	今日は仕事もお疲れのところをお集まりいただきまして、石川町にとりましては大変ありがたいことだと思っております。
	そしてまた、これから5年先、10年先の計画をみなさん方に御審議いただくわけですが、みなさん方の御意見を尊重しながらきちんとしたまとめをするように指示をしております。よろしく御審議をしていただきたいと思います。
	私もお陰様で、町長になって1年が経過いたしました。1年が経過した中で、ただ惰性でこのまま自分の任期を終わらせれば良いとは思っていません。私が町長になったからには石川町の町民のみなさんが、加納にやらせて良かったと言われるような方向性をきちんと出したいというのが私の真意でもあります。ですから、自分の思いを必ず町民のみなさんに理解してもらい、そして町民のみなさんが本気になって石川町の再生と将来に向かったものの考えかたをしていただきたいと思いますという様に思っています。私は役場の課長会議でも、今回、みなさんにお世話いただきます新しい総合計画につきましては、お互いに論議しながら、常に議論を戦わせて行く中でも、批判をするだけでは、議論は前に進まないものだから、提案をしていく形の議論を進めていただきたいと思います。批判をするのは誰でも出来ます。そうではなくて、自分たち自らが提案をして、あくまでも石川町の将来に繋げていく。これが私たちには大事だということを話しました。
	現在おかれている状況を考えますと、みなさんも御承知のように、石川町を取巻く他の町村と石川町が共に大きく成長できるとか、他の地域と比較して大きく異なるとかそういうところはありません。言わば、どんぐりの背比べで、財政面でも決して石川町が大きく劣っていて、他が良いということでもありません。福島県の60市町村の自治体の中で、健全な財政運営を行なっている自治体というのは、誰が見てもわかるのは郡山市だけで、他の市町村はどこもどんぐりの背比べという状況です。多少、原発の問題を抱えている浜通りの一部は財政豊かな自治体もありますが、そうでないところは、すべてほぼ同一線上にあります。こうした中で石川町の財政を盛り上げていくというのは普通の方法では出来ません。ですから、このことにつきましても、みなさん方には御理解をいただきたいと思っております。
	それから、私が一番、ここ1~2年できちんとやりたいのは、新しい企業誘致の問題です。このことにつきましても、石川町にこれという造成地もなければ、今現在、取得している土地もありません。そうした中で、石川町の町民のみなさんが持っている山林をここでどうでしょうかということだけでは説得力がありません。これについても、今年度中に土地を求め、造成まで行かなくとも、きちっとしたものを提示しながら、そういう問題に対しても取り組んでいく姿勢を示したいと思っております。そこで、みなさん方へ一番お

	<p>願いたいことは、これからはどこと比較しても、対して変わり映えしない中でも、どうやって石川町が元気のある自治体を作るかといったら、何といたってもやる気のある人間、そして提案型の人間がどれだけいるかで、勝負が決まりだろーと思います。人のやったことを批判してばかりでは、絶対に成長はありえません。あんまり批判ばかりしていると、この石川町に住みたくなくなってしまう。石川町の良さ、そして住みたくなるような提案をしていく、意見を述べ合うということに、石川町の活性化が生まれてくる。昨日、ここにいらっしゃる八幡屋の社長さんが、ふるさと財団からふるさと企業大賞を総務大臣から受賞されました。私も一緒にお邪魔させていただきましたが、その時の講演の中でも、やはり同じ様なことを一橋大学の先生がお話をなさってくださいました。このお話を聞きながら、お互いに視野を広げて、自分の住みたくなる町、自分が住んでいるところは自分たちで作る、この信念を持たなければならないと思っています。決して他人任せではいけないと思います。どうか、審議委員のみなさん方にも、そういうことを念頭に置かれまして、今回の計画についてご審議のほどをお願いをしたいと思います。</p> <p>私は、みなさん方に御期待をされるような、石川町という自治体を必ず作り上げてみたいと思っていますので、ご協力を賜りますようお願いを申し上げて、終わりとしたいと思います。</p>
	<p>1.開会 瀬谷企画調整課長 19:10</p>
	<p>2.会長あいさつ 西川会長 19:10~</p> <p>どうもみなさんこんばんは。</p> <p>皆様方の熱心な御意見をいただきたいと思います。そのためには、ひとつには、緊張感を持ってこの2時間を過ごしたいと思っております。もうひとつは、遠慮なくものを言い合う、ということです。この二つを私は心掛けたいと思いますので、どうか皆様方、ここにいらっしゃったら5回くらいづつ、ご自分の意見をお話いただきたいと思っております。</p> <p>議論のない形で帰ったのでは、町民の皆様方に対しても罪作りでありますし、また、自分自身の問題としてなんとなく問題があるのかなという思いもありますので、このようなことで、皆様方の熱心な御討議を期待します。</p>
	<p>3.説明事項 進行：西川会長</p> <p>石川町の行財政改革について 19:12~</p> <p>説明：総務課 佐藤主任主査兼行財政改革推進係長兼財政係長</p> <p>質疑応答 19:52~</p>
西川会長	<p>ここで質問を受けたいと思います。</p>
鈴木委員	<p>会議の説明や資料、あるいは町民のみなさんに対する説明などにおいて、言葉が難しい。もう少しわかりやすい言葉、身近な言葉、噛み砕いた表現をしていただくと頭に入りやすいと思います。</p> <p>ひとつ提案をさせていただくと、老人から子供まで身近になるような課の名前を考えたらどうでしょうか、というのが提案です。</p>

西川会長	行政の言葉を使わない行政の仕事っていうのは大切なことだと思います。住民主体の言葉で説明と資料を作るということを考慮していただきたいと感じます。他の方々もそう感じられた方も多いのではないのでしょうか。
相楽委員	町の財政の中では、平成20年度までは新たな普通建設事業を凍結するということであるが、自治体がある程度健全化するまでは、投資効果があっても投資を行わないということでしょうか。
佐藤係長	集中改革プランで言っておりますのは、地方債という町の借金を出来るだけ抑制すると言うことが第一点にあります。今は、国の制度改革の中で財政の収支のバランスというので評価しておりますので、町としましても、収支均衡をまず優先させるということのことです。必要な事業は、当然行なわなくてはならないということになります。20年度までは、新たに多額の借金をした中での事業実施というのは、現実的には難しい状況と思っております。
山口委員	鳥取県の片山知事の時代に、事業の中に人件費を計上することにしたようなのですが、このようにしたら数字の上で人件費が良くわかるような気がします。渡辺さんに御意見をお聞きしたいのですが。
渡辺副会長	部門ごとの部門別収支管理みたいなことでは、ある部門のその仕事をこなすための部門別の収支を出すという形をやったことはあります。
山口委員	町民もこれだけの事業内容で効率よく働いているということがわかれば、町の職員に対する良い評価も出来るようになるのではないのでしょうか。
渡辺副会長	民間ではコミット経営ということで、例えば調理部門は調理部門でどれだけ売って、人件費はどれだけかかって収益をどれだけあげたかというような、部門ごとの収益の積上型みたいな収益の計算方法になるわけです。
水野委員	農協でも事業の中で直轄の収益と費用、人件費を分類し、どうしても配分できない部分。例えば総務の部分とか監査室の部分とかいう部分については共通経費という事で、事業ごとに按分しています。この方法で最後にどうなるかということで判断しています。農協の場合は事業費用と、共済費用と農業関連事業と生活事業、営農指導事業による分類などをしています。
添田好史委員	基本的な書式は固定費を粗利率で割って、売上値として出るわけですよ。基本的には。従って売上目標を税収と置き換え、粗利率をみなし粗という形を設定すれば、それこそ収益企業のような計算式は成り立ちますけど、それを進めることが果たして適切なものかという問題は大きいと思います。基本的に石川町のスタンスを営利法人と同じ様に収益事業をやる町役場と考えるのであれば主になります。分析としての数値の検証作業にするのか、民間の売上目標値を税収に置き換えて投資が成り立つようにするのか、利益の中でしか人

	件費が払えないというような形にするのかどうかということが法律上可能なのかどうかという問題もあるわけです。
添田好史委員	石川管内5町村の中で、石川町の給料基準の平均はどの位置にあるのでしょうか。
佐藤係長	石川町は給与の5%削減というのを行なっておりまして、平成18年度の決算の数字で、単純に人件費を人数で割ったひとりあたりの人件費は、石川管内では石川町が一番低いということになります。
添田好史委員	みなし生産額を産出するのは可能ですか？
佐藤係長	財政健全化法の施行により、全国の自治体が平成22年あたりまでに、バランスシートを用いて企業会計の仕組みに近い形で財政状況を公表することが制度化されました。現在でもバランスシート自体は毎年度の決算において作成しております。内容を精査した中で公表をできる段階には至っていません。どの程度の内容を法律の施行に合わせた形で進めていけば良いのかを見極めながら進めたいと思っております。
瀬谷課長	行政の仕事をすべて収益的なもので考えることが良いのかというのは、相反する議論が必要になると思います。これからはそれぞれの自治体をもっと自主的に判断をしていくという形になる方向に進んでいくと思われます。自治体ごとに得意な部分やより良い部分もあれば、非常に弱い部分も出てくるというような、全国一律ではないバランスが生じてくるものと思われます。
西川会長	町民の夢を育む、子供たちが喜ぶようなものが、具体的に売上と経費や担当している役場の職員の件費はどうなっているのが全然わからないわけです。このような中で事業が見直しされるとというのが良くわからない状況だと思っております。
瀬谷課長	直接的に件費を出しているかどうかという問題になると時間外手当を支給しない勤務ということで正確な件費というのがわかりにくいかもしれませんが、1日に100人くらいの役場職員が出て、件費がどれだけになって、母衣旗まつりの効果がどうなのかを示せば、本当に役場職員でやったほうが良いのかそうではないのかと言う様に、様々な議論が出てくると思います。
西川会長	役場職員が民間のひとりひとりの個人の立場になって参加するというような発想ってというのは出来ないのでしょうか。
瀬谷課長	経過のお話をさせていただけば、母衣旗まつりは元々役場の事業ではなかったので役場職員が参加しているものではなかったわけなのですが、色々な民間の団体が一緒に母衣旗まつりというイベントを行なうという形で実行委員会を組んで行なっているのですが、現実的には徐々に役場職員が関わっていき、役場の行事のようになってしまったというのが実情になります。母衣旗まつりの主旨を今後どうして行くのか難しいことだと思っております。

	役場職員が奉仕をして町民に喜んでもらうのが良いのか、あるいはそれぞれの参加の団体が自分たちで主体的に作っていく、運営していくお祭りにしていくのか根本的な主旨を整理しないまま今日まで来てしまったと思います。
斉藤委員	今まで私たちがNPOとして行なってきたイベントは、事業経費とか色々なことを考えますと単独ではとても出来ないということになっています。この点については県のサポートを受けて行ってきましたが、規模としては1年間に300万円くらいの予算で、人数的にはボランティアを含めて50人から80人くらいの規模です。主催する側の自分たちが楽しんで行なっているという意識の中で進めてくれたので、ここまでこれたということを感じています。
	第4次総合計画の総括について 20:23~
	アンケートの集計結果について 20:34~
	まちづくり計画の実践例について 20:42~
	説明 企画調整課 企画係 添田主任主査兼企画係長
	質疑応答 20:47~
水野委員	第4次総合計画の中でかなりの項目に着手したのだが、第5次総合計画でも行政としては色々な事業に着手しなければならないとおと思いますが、どのような計画になるのでしょうか。
添田係長	第5次総合計画の基本構想ということで石川町の将来像は10年間のものを策定いたします。ただし、具体的な基本計画は5年間分のみを策定いたします。福祉の部門や環境の部門のようなことについては、これまでと同じように継続的な項目として計画にあがってきます。加えて重点的に何を行なうのかということ、重点プロジェクト的なものとしてまとめていきたいと思っています。
水野委員	あまりメニューが多くても町民には中途半端でわかりにくいのではないのかなと思いました。
添田係長	総合計画は町全体の計画になりますので、行政の中身の全てを網羅することが町全体の計画になります。重点プロジェクトとその他の計画は分けて掲載したいと思っています。
渡辺副会長	こうやって検証報告やアンケートの報告を見ると、良くこれだけまとめられたものだな、バランスの取れた報告で素晴らしいなと思います。
	石川町が持っているもので、町を紹介する上で原動力となる、活力源となる、あるいは5年や10年の間でこの停滞期をブレークスルーするエネルギーにはこの石川町には何があるのだろう。石川町が持っているものを最大限に磨いて、利用して、活かしていく。町の活性化対策としては、ひとつの大きな柱として地域の活性化という意味として企業誘致と、人口が13,000人くらいになってしまうという見通しの中で交流人口をふやす、

	<p>という二つの大きな柱なのだと思うのです。これを達成するための石川町が持っているもの何かに絞って5年、10年の計画の中で磨いていくということは何か、って言うことをみんなで見直してみるというもの大切であると思います。</p> <p>例えば、個人的な事例で大変恐縮なのですが、大川荘に行って再生の計画を立てるにあたって、一体ここに何があるんだろうということから、あるものを磨くしかないんだってという視点で考えたのは、際立った自然景観と豊富な温泉ということでした。それで、断崖絶壁を利用して棚田の露天風呂を作ってみました。体験上、なにかそこだけが持っているものを磨いて、際立たせて、これをアピールしていくしかないのかなというように思いました。石川町に何があるのか。それは先ほどありました桜というのもひとつの大きな柱だと思いますし、そういったものを見つけて、町民のみなさんに提案していくという場面があると良いのではないのでしょうか。</p>
鈴木委員	<p>計画は、なにか石川独自というようなものがあると良いと思っています。まちづくりも人づくりもみんな一生懸命やっている団体もあり、石川町の場合は、今進めている地区まちづくり委員会が話し合いをはじめめるのではなくて、すでに出来ているものを上手くコーディネートする力を発揮すれば、簡単にいいことができると思います。すでにあちらこちらで活動が出来ていて、新しい公園が出来ていたりしています。地域独自でやってきているものを上手く吸い上げて、町独自の方策を出すというのが良いと思います。</p> <p>今回、少し残念だなと思うのは、今回の審議会に1回で良いので、審議会の会議の終了までの全体に町長が同席していただくような機会があっても良いのではないかと思います。町のトップの人が方向性をしっかり持っていないと、色々な団体がいろいろな方向を向いて活動していたのでは、ひとつの方向に進みにくいと思います。いくら歯車があってもタイヤがたくさんあっても曲がった方向に蛇行してしまいます。頭になる人が方向性をはっきりと打ち出してもらわないと、例えばまちなかを活用したいとか、一番力を入れたいところなどのはっきりした方向性を明示してくれると、会議やこれからの町の団体の動きが良くなると思います。是非、1回でよいので、町長にはあいさつをただけで帰ってしまうのではなく、総合計画をする審議会なので、会議の最初から最後まで同席して会議の内容を聞いて、はっきりした意見を示して欲しいというのが、私の要望です。</p>
瀬谷委員	<p>私たちの活動というのは石川郡全体の活動という事でいわき石川青年会議所の活動を行なっています。様々なことをやっているのですが、町として予算を削って何かをやるというわけではなくて、ただ借金を返すためだけということのようですが、目標がないように思っています。やはり、借金を返すだけではなくて、何か新たなものを取り入れていかない限りは5年後を考えても何も変わっていかないのではないのかなと思います。その中で、できるところからということであれば、人口を増やすためにも町の土地で空いている土地や借地であったら安く貸してやるとか、イベントなどであれば私たちも自己財源だけでイベントをやっているものがメインで会員の年会費のお金で行なっていますので、町からの補助事業のような形で補助を出していただければ活性化になると思っています。</p> <p>みなさんの意見を聴きながら、役場ばかりではなくほかの団体を交えながらイベントなどを広げていくということが大事ではないかと感じました。</p>

野崎委員	文化協会の会員やメンバーはあまり従来と変わっていません。若い人がなかなか入らないので高齢化になっています。協会も高齢化で色々な準備が大変になってきています。また、施設が充実していないので準備も思うようにいかず支障をきたしています。各種団体が行なう町民を対象にした事業をみんなでやってみようかというように、力を合わせてひとつの取り組みをするというのも可能ではないのかなと思っています。
吉田委員	いち主婦の立場として、まちづくりというのは大切なんだとは思いますが、周りの人達が理解していない人が多い状況です。婦人会としては色々な広報の中で行政が取り組んでいることを読んで理解してもらいたいと思っています。今回は女性まちづくり委員会にも2名の委員が入っているのですが、その方たちも、参加しても雲をつかむような話でわからないというような事を話していました。もう少し私たち自身も勉強して知識を得ないとまちづくりというのは進められないと思っています。何か与えられて行動するのであれば、進んでいくことは出来るのですが、何も無い中での取り組みというのは私たちにとって少し難しいと思っています。
添田一文委員	(第4次総合計画検証報告書P37)公債費と地方債残高において、この借金が返せる見込みというか、借金がなくなるのはいつ頃ということになるのでしょうか。
添田係長	事業を全く行なわないで借金だけを返していけばゼロになるということになるかとは思いますが、行政は削減できない事業というものもあることから借金がゼロになるということとはなかなか無いことと思います。
添田一文委員	借金を返すということが一番の重点に置いて改革をすすめているということなのですが、この借金をどれくらいまで下げていくのを目標にしているのでしょうか。
添田係長	今の予算規模ですと、60億円の15%程度という事で年間9億円程度の返済に収まるような借金の借り方をしていくというような財政基盤を維持していくというような形になります。1年間の返済のうち予算の15%の範囲内で借金を返すという状態にしていくのが財政の健全化ということになってきます。
瀬谷課長	現在、石川町が置かれている状況というのは赤信号に相当するのですが、ここ2年ぐらいで黄色信号から青信号までもってくるまでを一生懸命努力するということです。借金をもう少し減らすということで安全地帯にはいるまで借金を減らすことに力を入れるということなのです。全く先の見通しも無く借金だけ返そうということではなく、これから併せて計画づくりもしていこうということで、これから先の展望も考えていこうということもご理解いただきたいと思います。
斉藤委員	石川町にもこんな良いところがあるというところを数多く気付いていただけるように各地区で行なっているまちづくりの方々へ要望したいと思います。日本全国が競争している中で、進むべき方向を選択するのが行政で、選択してもらったものをみんなが盛り上げていく、磨いていくという方向に進めていただきたいと思います。

瀬谷課長	<p>役場の課長会という場でも話しているのですが、石川町では桜と鉱物と自由民権などが町の象徴としての存在感があることと感じられています。これらが交流人口の増加に直接結びつくかどうかはわかりませんが、少なくとも、この石川町で他の市町村からみると、ひとつの資源であるという認識を得ました。これらのことをもう少し勉強して、どういう方向に対応していくのかという議論をしていくことにしました。そのほかにも温泉や、アンケートにもありましたように子供たちが感じている自然や景観などということも、この場でも色々な選択肢としての審議をしてもいいのかな、意見をいただいてもいいのかなというように思っております。</p>
添田京子委員	<p>最近、足湯って言うのがあるのですが、鉱物を利用した足湯つくったら良いのではないのでしょうか。農協のあんしん館という施設があるので、そこに足湯を作れば足を運んでくれる人や、立ち寄ってくれる人がいるのではないかと思うのですが。</p>
野崎委員	<p>さくらまつりの時期に資料館に鉱物の展示をして、ひとりでも多くの方に見ていただいたくというのはいかがでしょうか。興味がないとか知らない方というのはたくさんいると思うので、展示を見ればこんなに立派なものがあるんだなということになってくると思うんですよ。そうすると人から人へと伝わって、石川町にはこんないいところがあるんだなということが見えてくると思います。</p>
瀬谷課長	<p>今年の4月からなのですが、資料館の3階に鉱物のうち水晶が半分、残りの右のほうに鳥内から出土したもののうち状態の良いものだけを常設展示していますので、まだ、見ていらっしやらない方がいれば是非ご覧下さい。</p>
野崎委員	<p>石川町には約5000本の桜があるということらしいのですが、沢田地区でいえば鳥内とか鷹ノ巣とかにも桜が在ります。そういうところに将来は地域づくりが向いてほしいと思います。</p>
西川会長	<p>ここで2点ほどお聞きしたいのですが、検証報告は職員による内部評価なのですが、この中の評価において概ねA、Bの方がC、Dよりも高い評価ということで、プラスの評価になっていますが、これは、もっと厳しい評価をしても良いのではないかと思います。事業の数がたくさんある中で、難易度を考慮していません。例えばハード事業である役場庁舎の整備とソフト事業の角田市との交流事業というのも同列に評価しています。役場庁舎の改築については難易度は10です。今まで継続的にあまりお金を掛けずに角田市との交流事業をやっているわけですがけれども、これは難易度でいえば1か2です。こういうようなものを一緒にしながら、プラス・マイナスのうちプラスでは、やはり説得力はないと思います。評価をただ厳しくするというのではなくて、正確を期するというのも努力してほしいなと思います。</p> <p>ふるさとづくりのアンケートの集計報告なのですが、これもただ集計したっきりではなく、この集計報告によって何を言いたいのか、総括になるものがない気がします。この点を明確に出していただくことによって、問題点と課題とこれからの施策が見えてくるよう</p>

	な気がします。
添田係長	各所管の職員には、それぞれの業務の中でどのような意見があるのかということ把握してもらいように指示をしています。それぞれの分野で、自分たちの業務に対して、町民の方々がどのように感じているのか、どのような考えを持っているのか、といったものを分析をしながら第5次総合計画を策定して下さいということの指示をしているところです。
西川会長	トップに立つものというのは、このようなアンケートを通して、何を捨てて何を取り入れるのかということを確認しなければならないと思います。憎まれるところは憎まれるしかないわけです。一方で自分の夢を語っていただくことが重要になってきます。それに対して審議会からお答えするということになりますので、もう少し厳しく更に掘り下げていただきたいと思います。
渡辺副会長	民間の活力が重要だと思います。それぞれの分野に、みなさんがそれぞれの事業を通して、それぞれの職業の人達がそれぞれ夢を持っていると思います。夢を集約するような形で、それを原動力として町と町の計画とのベクトルを合わせていくという方向が重要ではないかと思います。私にとっては自分の事業を通して私が今考えているのは「観光交流空間の町」のまちづくりという感じです。結局、旅館として今までやってきましたけれども限界があるわけです。これから地域としての連合艦隊づくりをしていかないと、これから良いものは出来ないんじゃないかなと思っています。観光交流空間のまちづくりというのは、一事業主としての夢と町の方向性と、それから農業だったら有機野菜だとかの色々な業種で事業を行なっている人には夢があると思います。夢を持っている人をまとめ上げていく今後の方向性に持っていくことによって、計画も必ずしも出来てくるのではないでしょう。夢を追いかける「バカ」な人間が何人いるかによって、まちづくりの成功というのはそういう人がいればこそだと思います。由布院でも3人のバカがいたともいわれていますし。そういう夢を持っている人を探しあてて結集して行ったら良いのではないかなというように思っています。その夢と石川が持っているものを掘り起こして結びつけて夢を形にしていくことだと思います。自分は自分の事業を通して自分の夢を追い求めていきたいと思っています。このようなことで町がやろうとしていることとベクトルが合ってきたならばパワーになるはず。一民間企業では出来ないことが町との方向性、計画と合致していけば大きな力になります。そうすると、本店機能のある事業所、主体性を持っている事業所だと思います。リスクテイクしている自営業の夢を持っている人達をどれだけまとめあげていけるか、っていうことが必要になってきます。それぞれの分野ごとに色々な事業がありますが、この人達がまとまっていけば本当にいいものが出るのではないかなと思っています。
西川会長	添田好史委員の資料について説明いただきます。
	21:21~
	添田好史委員：説明

	質疑応答：21：34～
山口委員	素晴らしい資料をありがとうございます。この資料はまちづくり委員会に提供していた できれば最高に良いのではないのでしょうか。
添田好史委員	まちづくり委員会を束ねましょうということなんですね。そして石川町が何かやり始め たよっていうことを発信していくことです。
山口委員	資料的に素晴らしい資料で、まちづくり委員会の方に資料提供したら素晴らしいのでは ないかということで、役場的にはこの会の中で内容を公表するようなことではないような 気がするのですが。
添田好史委員	進行計画のひとつの一面だけです。前回の話を引き受けての話ということですよ。
鈴木委員	今、伺った内容についてなのですが、夢づくりいしかわでは、今お話いただいた内容を 全部網羅されています。私たちの活動というのは生涯現役サポーターということと夢つく り、人づくりということを基本として、医療とかの関係からアプローチしたいと思ってい ます。町全体のベクトルを合わせて動いたら本当にすごいことが出来ると思います。よそ に無いことはいっぱいあって、役場がエコなのも当然なんですけど、夏場に扇風機しか使 っていないということも宣伝に活かせるみたいなどころがあっても良いかなって思ってい るところもあります。
	国保組合で歯科ドックというのをやっているのは全国で多分ひとつしかないようです。 このような事をやっているというのは実は珍しいことだといえます。石川町には医療機関 自体はたくさんあり、みんなで力を合わせたら、終の棲家として歩いて暮らせるまちづく りの実現にすごく近い町なのです。この町に関わる人材の方向を合わせて進んだら、すご くいい町にすぐなっちゃうと思います。
添田好史委員	みなさんがそれぞれ色々なことに取り組まれていることは、わかってはいるのですが、 これを体系化して広報しましょうというのが主旨であります。
西川会長	話の中で面白かったのは、第4次総合計画の3つの土地利用ゾーンをばかしていくとい うようなことを提案されていましたね。石川町全般的にこういうふうな石川町なんだとい うようなコンセプトを別のものをつくったらということで、その辺もひとつのヒントになっ てくると思います。
	5.その他 21：39～
	・第5次総合計画の経過について
	・報酬について
	6.閉会 22：00

